

スペインの

現代建築



www.spain.info

カンタブリア海

大西洋



産業観光商務省

発行：© Turespaña

制作：Lionbridge

NIPO: 086-17-059-4

無料配布

パンフレット内容については万全を期して作成いたしましたが、お気づきの点がございましたら、改善のために brochures@tourspain.es までメールでお知らせください。

表紙：ニーマイヤー・センター、アビレス

裏表紙：ブリッジ・パビリオン、サラゴサ

写真：Carlos Edgar Soares Neto/123rf.com

目次

はじめに	3
絶対に見逃せない現代建築30選	4
ミュージアム	
文化スペース	
会議や公演のためのスペース	
住居とオフィス	
ワイナリー	
その他の建築物	



はじめに

▲ ボティン・センター

過去の歴史が現代の建築と融合するスペインへの旅では、さまざまな発見ができることでしょう。この国では近代的な前衛建築が伝統的な建築と調和し、共存しています。創造性とイノベーションにあふれる、たくさんの建築物をぜひ訪れてみてください。

古代ローマの遺跡、イスラム文明の足跡、中世、ルネッサンス、ゴシックなど異なる様式で造られた壮麗な建物、さまざまな建材など、すべてが今、都市の整備や再開発を担当する建築家たちに多くのインスピレーションを与えています。スペインで見られる伝統と前衛の融合が、訪れる人々を魅了し続けています。

もちろん、スペインの魅力はそれだけではありません。この上ない気候条件に恵まれているスペインは、一年中、どの季節に旅しても満足できるはずで

す。自然と芸術の豊かさもスペインが誇る財産です。そして、素晴らしい食文化も忘れるわけにはいきません。最高級の料理を提供するレストラン、市場にあふれる食材、世界でもトップレベルのワインなどすべてが食通たちをうならせます。

スペインでは、建築家のノーベル賞と言われるプリッカー賞を受賞したラファエル・モネオや建築家集団スタジオRCRなど、スペイン人建築家設計の傑作とされる建築物を見ることができます。また、フランク・ゲーリー、オスカー・ニーマイヤー、レンゾ・ピアノ、ジャン・ヌーヴェル、ノーマン・フォスターなど、世界的に知られている建築家の名建築にも出合えます。

ユニークなファサード、バイオクライマティック建築、まばゆいばかりの内装などたくさんの興味深い造りが見られる



▲ バルセロナ現代美術館 (MACBA)
バルセロナ

スペインは、建築物巡りに最適な場所 と言えるでしょう。

絶対に見逃せない現代建築30選

スペインの街を歩いていると、あらゆる建築物の中にイノベーションとデザイン性が見られると気づくでしょう。各地で街のシンボルとなっている、驚きの建築物の中から30例をご紹介します。

ミュージアム

ソフィア王妃芸術センター新館、マドリード

国立ソフィア王妃芸術センターを訪ねたら、ピカソの名作「ゲルニカ」を鑑賞するだけでなく、18世紀に新古典様式で造られ、かつて病院だった本館、そして現代様式で増築された別館による、調和の取れたコントラストをぜひご覧ください。この2棟の建物では、近代・現代のスペイン美術を代表するコレクションを展示しています。

フランス人建築家、ジャン・ヌーヴェルによって設計された新館は斬新なデザインで、巨大な赤い屋根とポリエステルで強化されたグラスファイバーによる光を反射する外壁が目を引きま

中に入ると、スチール板とガラスでできた箱が連続するような構造。箱の間にある中央広場では、ロイ・リキテンスタイン作の彫刻が出迎えます。

また、新館の地上階には立派な図書館があり、一般に公開されています。カラフルな色彩空間で、いろいろな料理を味わえるカフェ・レストランにも立ち寄ってみましょう。テラスでランチ、あるいは中でユニークなインテリアを楽しみながら美味しいディナーを堪能してください。

① 詳細 www.museoreinasofia.es

▼ ソフィア王妃芸術センター新館
マドリード





MACBA - バロセロナ現代美術館

白色、光、そして透明なガラスが主役のミュージアムは、バルセロナの中心地にリチャード・マイヤーの設計により造られました。プリッカー賞受賞者であるアメリカ人建築家の傑作とされる建物は、外観も内観も圧巻。細長いギャラリーや透明感あふれるスペースの中で、現代美術コレクションを鑑賞しましょう。

「MACBAのフォルム、構造、光は、ゴシック地区の雰囲気や都会的な豊かさ、個性からインスパイアされたもの」とマイヤー自身が語っています。その言葉通り、いくつものオープンスペースがつながる構造は、古い修道院、僧院、宮殿と中庭が網の目のようにつながる、この地区特有の中世からの建築構造を彷彿させます。

① 詳細は www.macba.cat をご覧ください。

ビルバオのグッゲンハイム美術館

ラ・サルベ橋へ通じるいくつもの広い遊歩道を歩いていると見えてくる美術館の建物は、かなり衝撃的です。その姿は、まるでビルバオの河口に碇を下ろすチタン製の大西洋航路客船のようです。

カナダ人の建築家、フランク・ゲーリーのデザインで造られた非常に複雑で込み入ったフォルムは、美術館の各側面で異なる外観を演出します。ビルバオの市街地とその周辺の景色に完璧に溶け込んだ彫刻のような構造を持つミュージアムは、今やこの街のシンボルとなっています。

そして中に入ると、世界でここだけのユニークな展示空間が広がります。ミュージアムは中央のアトリウムを中心とした3階構造。ゲラリーは建材にチタン、ガラス、石灰石を使い、曲線を多用した歩道、エレベーター、階段となっているタワーなど異なる空間をつなぎ合わせています。

① 詳細 www.guggenheim-bilbao.eus

メディナ・アサアラ遺跡のビジターセンター、コルドバ

イベリア半島におけるイスラム期を象徴する都市、メディナ・アサアラの遺跡を訪ねて、アル・アンダルスの時代へとタイムトリップしましょう。遺跡のミュージアムとビジターセンターである建物は、ニエト・ソベハノ建築デザイン事務所的设计によるもの。千年以上も昔に

壮大な宮殿都市の構想を立て、それを実現したイスラムの人々に思いを馳せてみませんか？

今もなお大部分が未発掘のままというこの遺跡のミュージアムを設計するに当たり、建築家のフエンサンタ・ニエトとエンリケ・ソベハノは、考古学者の目線から着想を得て、千年もの長い間、地下に眠る遺跡をイメージし、ミュージアムの建物を地下に造りました。このユニークな建物は、建築界の栄誉ある賞、アーガー・ハーン建築賞とピラネージ賞を受賞しました。

神秘的な地下スペースやオープンエリア、そして見学順路の道標となる中庭を歩いてみましょう。神聖な場所に相応しい、静寂へと誘う空間で、光と影、素材特有の質感を肌で感じてください。





写真: Roberto Atencia Gutierrez/123rf.com

▲ カスティーリャ・イ・レオン現代美術館 (MUSAC)
レオン

MUSAC、レオン

レオンの街でロス・レジェス・レオネセス通りを歩いて行くと、うっそうと生い茂る木立の間からカスティーリャ・イ・レオン現代美術館 (MUSAC) のカラフルなガラスで覆われたファサードが見えてきます。この独創性が評価され、設計を担当したマンシージャ + トウニョン建築デザイン事務所は、2007年に栄誉あるミス・ファン・デル・ロー工賞を受賞しています。最も興味深いのは、ファサードの色をどのようにして選んだかという点。レオン大聖堂のステンド

ガラスの画像をデジタル解析して色を特定したとのこと。

その他の部分は白いセメントの壁が続く平屋で、ミュージアムの主役はあくまでも現代芸術作品であることをわきまえた造りになっています。館内では、古代ローマのモザイクに見られる正方形と菱形を組み合わせた幾何学模様が独特のフロアに注目してください。

① 詳細は www.musac.es をご覧ください。

人類進化博物館、ブルゴス

ブルゴス県にあるアタプエルカ山地は、世界で最も重要な考古学遺跡のひとつが発見された場所です。ブルゴス県の首都には、発掘物の展示、人類の起源に関する解説を行う人類進化博物館(MEH)が造られ、スペイン人の建築家で、彫刻家、画家でもあるファン・ナバロ・バルデュグが設計を担当しました。

まずは遺跡に足を運び、その後にこのミュージアムを訪ねてみてください。そうすれば、テラスからアルランソン川にかけて、斜面に固有種の草木が植えられた外観は、遺跡のある山地の風景に着想を得たものだとわかるはずです。

本館に入ると、すべてがガラス張りのため、まるで建物の外とつながっているように感じることでしょう。この光の箱の中の巨大空間に身を置き、圧倒的



▲ 人類進化博物館
ブルゴス

なまでの大きさと明るさを体験してみませんか。

① 詳細

www.museoevolucionhumana.com

ARQUA、カルタヘナ

新しくできた国立海洋考古学博物館(ARQUA)では、スロープを下りて行くと、深い海の底へと誘われます。スペインならではの海洋考古学の豊かな財産をぜひ堪能してください。

建物は、細長く不透明な部分と、尖って屈曲する透明な部分の2つの出っ張りが地上に顔を出す構造になっています。この2つの出っ張りが、カルタヘナ港に面している広場の一角を演出し、さまざまな展示や屋外イベントが行われています。館内で最も興味深い場所は天窗のあるスペースで、天井から大

きな船2隻(ひとつはギリシャ時代、もうひとつは中世の船)の鉄の骨組みが吊るされています。

このミュージアムはスペイン建築賞を受賞した建築家、**ギジェルモ・バスケス・コンスエグラ**による設計で、ニューヨーク近代美術館(MOMA)で展示されるべきハイレベルなデザインです。

① 詳細 www.mecd.gob.es/mnarqua

文化スペース

カイシャ・フォーラム、マドリード

スイス人建築家ユニット、ヘルツォーク & ド・ムーロンがデザインしたこのユニークな展示場は、芸術の散歩道という意味の「パセオ・デル・アルテ」地区のそば、プラド通りに面しています。

パトリック・ブランクがデザインした見事な垂直庭園が建物の側面を覆い、足元を見ると、新しいビルが空中に浮いているかのような印象を受けます。噴水や巨大な彫刻による装飾で半分覆われた広場もあります。

建物全体のデザインは、かつて工場として使われていた建物のファサードの赤レンガをそのまま残し、上部は腐食した金属を思わせる仕上がりになって

います。多角形のフォルムを持つ金属製の階段を通って中へ入り、広いロビーからいくつもの異なるスペースへアクセスできます。

他フロアにある展示スペースへ行くには、ニューヨークのグッゲンハイム美術館を彷彿させる別の美しい階段を利用します。

カナル劇場、マドリード

スペインの首都を観光するなら、パフォーマンス・アート専門の名劇場に立ち寄って、人気の舞台を鑑賞するのもお忘れなく。現代建築の傑作である劇場自体が素晴らしい芸術作品です。



この現代建築による複合施設は、スペイン建築ビエナル賞も受賞しています。ファン・ナバロ・バルデューグの設計で、劇場が2棟、リハーサルや振り付け用のスタジオなどが入る建物が1棟あり、いずれもガラスで覆われたファサードが張り出す印象的な造りです。広々とした1階ホールにはショップやカフェなどが並び、すべてガラス張りなので、その様子が外からも見えます。上階の外壁は半透明のガラス張りで、建物ごとに黒、赤、シルバーと色が統一されています。

内部には大理石と木材が使われ、自然光があふれる空間となっています。パフォーマンス・アートの舞台が行われる各劇場へはエスカレーターで上がります。メインとなるのはサラ・ロハ(赤の間)の劇場で、あらゆるタイプのパフォー

マンス・アートに対応する最先端の技術と最新設備を備えています。サラ・ベルデ(緑の間)の劇場は、用途に合わせて形状や配置を変えることができ、より実用的になっています。また、サラ・ネグロ(黒の間)の劇場は、小さな空間で行うパフォーマンスに適しています。

サン・アントニ図書館、バルセロナ

スタジオRCRは独特のスタイルで知られ、サン・アントニ図書館のプロジェクトで2017年度のプリッカー賞を受賞しています。街の一角で埋もれていた空間を、図書館、高齢者向け施設、子供の遊び場などの公共複合施設としてよみがえらせました。

通りから見ると、完全に中が透けて見える高くて存在感のある建物で、樹木が植えられた中庭も魅力的です。この張り出し部分の下は図書館へ通じるエントランスになっていて、自然光があふれています。

散策の途中に立ち寄って、休憩したり、読書を楽しんだりしてはいかがでしょうか。階段状のユニークな空間なら、リラックスした気分で読書できることでしょう。

ラファエル・アラнда、カルメ・ピジェン、ラモン・ビラルタらスペイン人建築家の作品の特徴であるソーシャル空間のコンセプトが取り入れられ、高齢者向け施設に続く通路からは金属製のスラットを隔てて子供の遊び場が見える構造になっています。



カイシャ・フォーラム:
マドリード

ボティンセンター、サンタンデル

まるで空中に浮いているように見える現代芸術センターは、今にも飛び立ちそうな印象です。まさにそれが、設計した建築家、レンゾ・ピアノの狙いでもあります。スペインの建築スタジオ、ルイス・ビダル + アーキテクトとコラボし、驚異的な軽さを追求して造られた傑作です。

サンタンデル市内の中心地、海上に張り出した敷地に建てられ、周りにあるペレダ庭園の樹木と同じ高さの支柱が、建物を下から持ち上げています。まさに建築分野における偉業のひとつ。街を散策がてら、ぜひ近くでご覧ください。市街地、由緒ある庭園、サンタンデル湾をつなぐように、建物が景色に完全に溶け込んでいるのがわかります。

① 詳細 www.centrobotin.org

▼ ボティン・センター



ニーマイヤー・センター、アビレス

1989年にアストゥリアスでスペイン皇太子賞(芸術部門)を受賞したブラジル人建築家、オスカー・ニーマイヤーは、返礼として白紙に曲線を描き始めました。

写真: David Pereiras Villagra / i23r.com

▲ ニーマイヤー・センター
アビレス

そして、スペインにおけるニーマイヤー唯一の作品が完成し、「ブラジルにあるもの以外では最も愛しい作品」と、プリッカー賞受賞者であるニーマイヤー自身が評しています。この複合文化施設には、オーディトリウムから、ドーム、タワー、多目的ビル、オープンスペースまであります。

建物はいずれも地上に突き出したように見えますが形状は異なり、この建築家ならではの曲がりくねったラインと白一色の特徴は共通しています。ここを訪れたら、展望タワーにぜひ昇ってみてください。市街地やアビレス河口の眺望を堪能できるだけでなく、レストランで前衛的な料理も味わえます。

ミゲル・デリベス文化センター、バジャドリ

スペイン人建築家、リカルド・ボフィルの設計による複合施設は、波の形をした屋根が特徴的で、音楽の音の波を表しています。3棟の建物が屋根の下の中央にある広い空間を囲み、この広場はすべてのスペースをつなぐインタラクティブなアトリウムとなっています。

中に入ると、交響楽団から室内楽まで各種コンサートや実験演劇などを行うことができる多目的空間とバジャドリ舞台芸術学校の施設があります。



▲ 芸術科学都市
バレンシア

バレンシア芸術科学都市

ヨーロッパで最もインパクトのある娯楽・文化・建築の複合施設のひとつを訪ねてみませんか。5棟の建物の有機的で未来的なフォルムがまず目に留まります。これらのほとんどは、サンティアゴ・カラトラバが、もう一人のスペイン人建築家、フェリックス・カンデラとのコラボでデザインしたものです。

プロジェクト全体を通してカラトラバの特徴がよく出ており、そのスケールの大きさには圧倒されます。地中海の伝統を意味する海と光を、青と白で表現したソフィア王妃芸術センターは、トゥリア川に碇を下ろした船のように見えるフォルムが、さまざまな海洋活動を連想させます。

そのほかにも、巨大なクジラの骨格のように見える科学博物館、眼のような形をしたレミスフェリック、睡蓮の花をイメージして造られた屋根がユニークで、フェリックス・カンデラの特徴が最もはっきりと見られるオセアノグラフィックがあります。

① 詳細は www.cac.es をご覧ください。

カイシャ・フォーラム、セビージャ

このユニークな建物で最初に目を引くのは、なんとといってもインパクトのある発泡アルミニウム製の張り出しでしょう。発泡アルミニウムは、旧表彰台をミュージアムと文化センターという新たな役割に適合させるために、建築家ギジェルモ・バスケス・コンスエグラが追求したイノベーションを象徴する素材です。

1992年の万博会場近くに位置するこの複合施設には、地下の展示スペースと、センターにつながる公共オープンスペースがあります。計算された採光システムによって、内部はまるで大聖堂の中にいるように感じられます。屋根から入る光は、まるでゴシック様式教会のステンドグラス越しの光そのものです。

メトロポール・パラソル(セビージャのキノコ)

世界最大の木造建築はあっという間にアンダルシア州首都のシンボルとなりました。エンカルナシオン広場は、ドイツ人建築家ユルゲン・マイヤーが21世紀初頭にデザインし、今では「セビージャのキノコ」と呼ばれている建物によって生まれ変わりました。

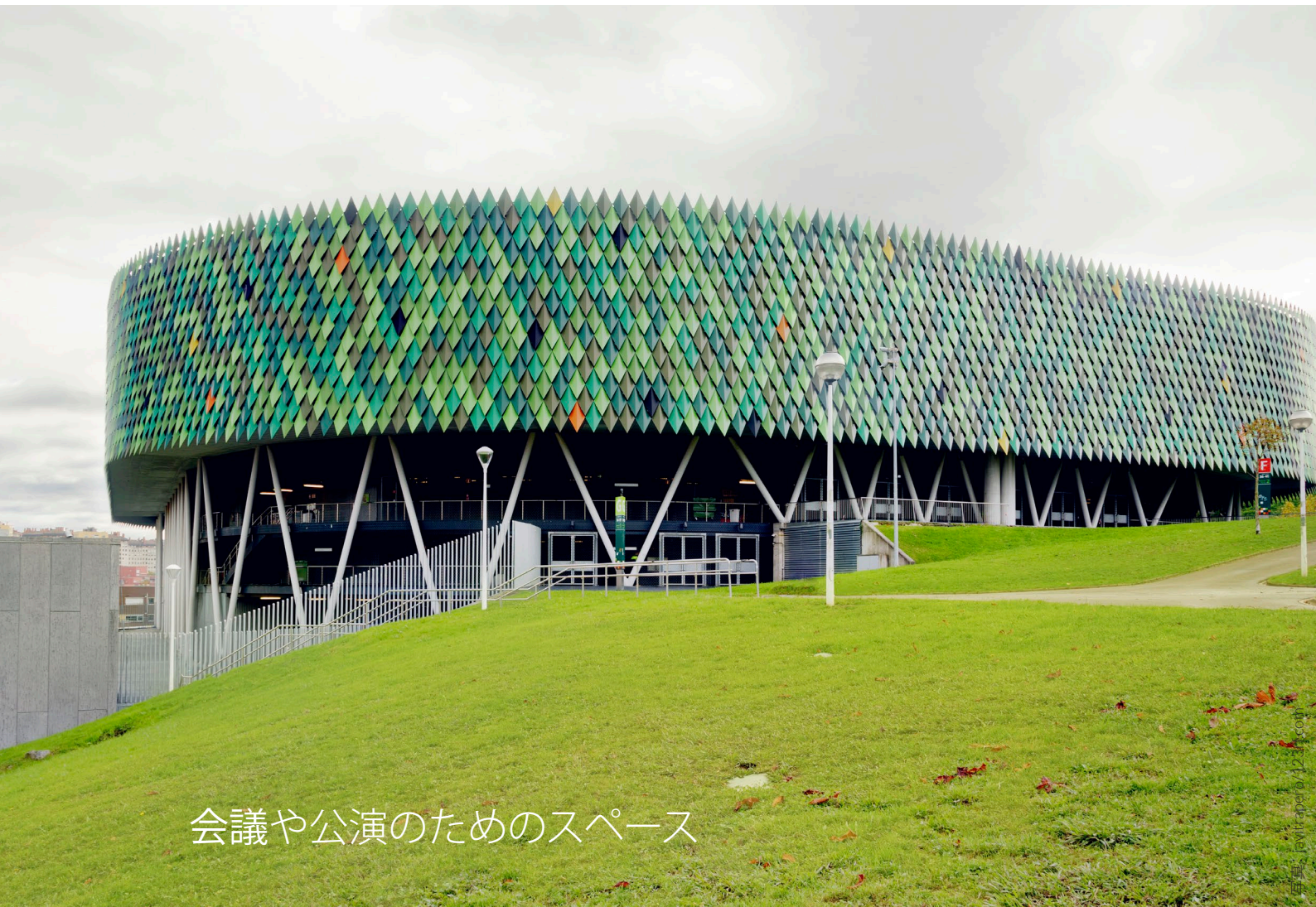
地下に考古学博物館、市場、レストラン街などが入る複合施設となっており、地上には地面より高い位置に造られた広場が、パラソルの上にはセビージャの街の眺望を楽しめる展望台があります。

① 詳細 www.setasdesevilla.com

ユニークな網状のデザインとひとつの構造の中に複数の機能を統合させたマイヤーの才能に、感嘆せずにはられません。

▼ メトロポール・パラソル
セビージャ





会議や公演のためのスペース

▲ ビルバオ・アリーナ
ビルバオ

ビルバオ・アリーナ、ビルバオ

バイオクライマティック現代建築の象徴であるこの場所は、すっかり周りの景色に溶け込んでいます。アリーナの建材は、取り囲む自然に調和するものばかりが選ばれています。石材はかつて存在した鉱山の岩を、そして建物全体の土台と緑の側面はミリビージャ地区のうっそうとした木立を思わせます。

建築家のハビエル・ペレス・ウリバリとニコラス・エスピサ・バリエントスの設計で造られたこの建物は、屋内競技場、バスケットボールコート、会議場など多目的に使用できるスペースとなっています。コジェネレーション、雨水の再利用、屋上緑化、パーティションの再利用を可能にする革新的技術など、さまざまなシステムを組み合わせ、持続可能なデザインを実現させました。

クルサール国際会議場・公会堂、 サン・セバスティアン

ウルメア川がカンタブリア海に注ぐ河口近く、スリオラ海岸と市内グロス地区との間に建つのは半透明のガラスで覆われた2つの立方体、クルサール国際会議場・公会堂です。優秀な現代建築に与えられる、ミース・ファン・デル・ローエ賞を受賞しています。

設計したプリッカー賞受賞建築家のラファエル・モネオが「外観は浜に打ち上げられた2つの岩」と評する建物は、この街のシンボルとなりました。権威ある国際映画祭、各種国際会議を始め、あらゆる種類の文化イベントの開催場と

なっています。昼はもちろんのこと、ライトアップされる夜も美しく、サン・セバスティアンという街のイメージを一新させました。

人工物と自然が調和し、広いオーディトリウムや多目的ルームの機能性にもモネオのこだわりが感じられます。内部に足を踏み入れると、温かみのある雰囲気、作りの漂い、作者の才能を実感することでしょう。

① 詳細は www.kursaal.eus をご覧ください。

▼ クルサール
サン・セバスティアン





国際会議場
サラゴサ

国際会議場とブリッジ・パビリオン、サラゴサ

2008年に開催されたサラゴサ万博を機にニエト・ソベハノ建築デザイン事務所によるプロジェクトで世に出た、白いセラミック、スチール、ガラスの外観と前衛的な幾何学的フォルムを持つ巨大な複合施設です。実際に訪れてその姿を確かめてください。

入口の前にあるジャウマ・プレенсаの作品、「エブロの魂 (El alma del Ebro)」は、スチールでできた文字を網状につなぎ合わせて人間の形にしています。夜になると、会議場だけでなく周りの広場も独特なスタイルでライトアップされ、空間全体が別世界のようになります。

2008年開催の万博で会場へのアクセスに造られたのが、水平に延びる壮観な建築物、ブリッジ・パビリオンです。そのユニークな通路と形には驚かされません。プリッカー賞受賞建築家、ザハ・ハディッドによって設計された未来派建築は、エブロ川の上にグラジオラスの花を置いたように見える構造が特徴的です。建物の外観は菱形を組み合わせた網状のメタル構造で、サメの鱗をイメージしたとされます。ガラスで覆われた内部は、イノベーションとテクノロジーをテーマにしたインタラクティブなミュージアムになっています。

① 詳細は

www.feriazaragoza.es/recintos/palacio-de-congresosをご覧ください。



▲ 国際会議場
オビエド

オビエド市国際会議場

圧巻の建物は、世界的に有名なスペイン人建築家のひとりで、常に驚きと独創性に満ちたデザインを追求するサンティアゴ・カラトラバの作品です。オビエドの人たちが、蟹に似ていることから「エル・セントージュ」と呼ぶこの建物を訪ねて、まるで生物のような真っ白な姿をぜひ間近でご覧ください。

庭園の中心にあるこの建物は、広い空間に佇むユニークな彫刻作品のようです。庭園を散策し、この壮大な彫刻作品

をいろんな角度から鑑賞しましょう。ガラスとスチールの外壁と楕円形のフォルムは、コンサート会場となる壮大なオーディトリウムで最高の音響を提供できるようにデザインされたものです。実際にオーディトリウムに立てば、このプロジェクトがいかに大規模なものかを実感できます。

① 詳細

www.auditorioprincipefelipe.es



オーデトリウムアダン・マルティン、テネリフェ

サンティアゴ・カラトラバの代表作はもうひとつ、カナリア諸島のサンタ・クルス・デ・テネリフェの港と海洋公園の間に建っています。

巻貝を思わせるこのオーデトリウムは、見る者によってさまざまなものを想起させる曲線的なフォルムを持ち、街と海との関係性を表現しています。今ではこの街のシンボルのひとつとなっています。激しく打ち寄せる波のよう

に基底部からそびえる屋根、その高さはオーデトリウムの上で58メートルにも達し、その後、下に向かって先が細くなって行きます。

① 詳細

www.auditoriodetenerife.com

オーデトリウムアダン・マルティン
テネリフェ

住居とオフィス

クアトロ・トーレス・ビジネスエリア、マドリード

野心的なプロジェクトから生まれた複合施設、クアトロ・トーレス・ビジネスエリア（CTBA）は、スペインの首都に未来派高層建築群を造り上げ、マドリードのスカイラインを一変させました。

目もくらむようなトーレ・デ・クリスタルはスペインで最も高い建物で、249メートルあります。クアラルンプールのペトロナスツインタワーを設計したことで知られる建築家、シーザー・ペリが、マドリードの建築スタジオ、オルティス・レオン建築デザイン事務所とのコラボで造ったものです。カットガラスのようなファサードと内部に造られた垂直庭園は、マドリードで見られる最もインパクトの強い建築のひとつとして際立っています。



▲ クアトロ・トーレス・ビジネスエリア
マドリード

トーレ・セプサはイギリス人の建築家、ノーマン・フォスターの設計によるもので、建物の頂上まで延びた金属製の巨大なアーチが支える、垂直に重ねられたいくつもの棚のように見えるデザインには驚かされることでしょう。

一方、トーレPwCは、スペイン人建築家、カルロス・ルビオ・カルバハルとエンリケ・アルバレス＝サラ・ウォルターによって造られました。建物には最高級ホテルが入り、4つのタワーの中で

唯一、部外者のアクセスが可能です。ホテルは31階まであり、マドリードの街を見渡せる展望レストランも利用できます。

その隣にそびえるのが、トーレ・エスパシオで、イオ・ミン・ペイとヘンリー・N・コブが共同で設計したものです。まるで地底深くから植物が地上に芽吹き、天に向かって伸びているかのように、正方形の基底部からカーテンのようなカーブを描く側面がそびえています。



トーレ・グロリアス(旧トーレ・アグバル)、バルセロナ

バルセロナの現代建築を象徴するこの巨大な円筒形の建物は、壁面がガラスで覆われ、そこには地中海の色が映し出されています。ジャン・ヌーヴェルとb720フェルミン・バスケス建築デザイン事務所とのコラボによる作品は、大地から噴き上がる間欠泉を思わせる独特のフォルムに驚かされます。

以前はトーレ・アグバルと呼ばれたこの高層ビルは、巨大なカーテンのように建物全体の外側をガラスが覆い、内部では柱もない広い空間にガラス越しの光があふれます。外壁はさまざまな色のガラス板で構成されています。タワーは下から赤などの暖色系に始まり、高さが増すにつれて寒色系に移行し、頂上は白というように、ガラスを組み合わせる色のグラデーションを演出しています。夜になると、タワーはライトアップされ、美しい姿を見せてくれます。

ウォーマン・タワー、ラス・パルマス・デ・グラン・カナリア

ラス・パルマス・デ・グラン・カナリア市内北部、市街地と陸繋島のラ・イスレタをつなぐ地峡部分に建つ巨像のようなタワーは、スペイン人建築家2名が共同経営するアバロス & エレロスがホアキン・カアサリエゴとエルサ・ゲラとのコラボで設計したものです。

多目的利用の高層建築は、丸みを帯びたデザインで、周りの自然との調和も完璧。建物を見上げると、最上部の何階分かが傾いており、その全景を見ると非常に独特な姿をしています。外壁のガラスには植物のモチーフが刻まれ、大西洋を望む大窓のガラスは黄色を帯び、抜群の眺望が楽しめます。

ワイナリー

シウダ・デル・ビノマルケス・デ・リスカル、エルシエゴ

ワインの大聖堂とも言える場所で五感のすべてを喜ばせ、フィエスタ気分を味わいましょう。フランク・ゲーリーの設計による新しいワイナリーと豪華ホテルは、波のような曲線が美しいチタン製の外壁が印象的で、まるで葡萄畑の上に浮かんでいるように見えます。

このカナダ人建築家は動きを表現するために、全体が「野原を駆ける動物」を思わせるフォルムをデザイン。外観にはワイナリーを想起させる色として、赤ワインのピンク、ワイナリーの特徴的なボトルにかけられる網のゴールド、キャップシールのシルバーを使っています。

▶ シウダ・デル・ビノマルケス・デ・リスカル
エルシエゴ、アラバ



イシオス・ワイナリー、ラグアルディア

アラバの街からカンタブリアの美しい山々へ向かう途上に、驚くべきワイナリーがあります。サンティアゴ・カラトラバが創り出した興味深いワインの世界に浸りましょう。

この建物の特徴であるアルミ製パネルで造られた屋根と木造の壁が見事なコントラストを生み出しています。屋根に太陽の光が当たると建物全体が輝き、まるで魔法のような感覚を覚えます。建物内部は、イシオスのワインの熟成に使うオーク樽を連想させる木目を生かした空間になっています。

建物の中央部、屋根が前方へ突き出している部分は、ワイナリーと葡萄畑を見渡せるバルコニーになっていて、訪れる人たちはここから素晴らしい展望を楽しむことができます。

プロトスワイナリー、ペニャフィエル、バジャドリ

木とセラミックとガラスが完璧にまで結合するワイナリーの建物は、プリッカー賞受賞建築家、リチャード・ロジャースの建築スタジオと、スペインの建築スタジオ、アロンソ・バラゲールと共同建築家チームとのコラボでデザインされました。



イシオス・ワイナリー
ペニャフィエル、アラバ

このプロジェクトで目指したのは、ワイン醸造に関わる伝統的建築を現代風に表現することでした。ペニャフィエル城がそびえる丘の斜面を下ると、遠い昔に地下に造られたボデガ(酒倉)があります。新しい建物の基底部にも地下を掘ってボデガが造られ、古くからあるボデガとつながっています。

このワイナリーで最も目を引くのは、その屋根でしょう。特に、すぐそばにそびえる城の上から眺める屋根は壮観です。この地方で昔から使われている屋根の色と形を思い起こさせる大きなサイズのセラミックタイルで覆われた5棟の丸屋根に注目してください。



プロトス・ワイナリー
ペニャフィエル、バジャドリ

その他の建築物

マドリード-バラハスアドルフォ・スアレス空港の第4ターミナル

空路でマドリードに向かうなら見逃せないのが、リチャード・ロジャースとマドリードの建築スタジオ、スタジオ・ラメラとのコラボによって造られた建築工学の結晶、空港第4ターミナルです。何と言っても波の形をした屋根が特徴的です。屋根に造られた多数の大きな天窗のおかげで、未来派の外観を持つターミナルの建物3棟はいずれも下の階まで自然光があふれています。

「人々の人生を彩る旅を祝う場所」というロジャース自身の言葉は、バイオクライマティック建築を用いた前衛的デザインにより実現しています。利用客が場所の認識をしやすいように、ターミナル内のゾーンごとに柱の色が異なり、ターミナル全体が色彩豊かになっています。

▼ マドリード-バラハスアドルフォ・スアレス空港の第4ターミナル
マドリード



Wホテル、バルセロナ

バルセロナ港のリノベーションの象徴とも言える5つ星ホテルは、地中海を望む巨大なヨットのようにも見えます。設計したのは、リカルド・ボフィルです。熱反射ガラスの外壁に空の色と海のきらめきが一体となって映り込み、カタルーニャの首都の風景に忘れ難いアクセントを添えています。

中に足を踏み入れれば、家具や照明と一体となった見事な前衛的空間に目を奪われることでしょう。地上から約100メートルの高さにある最上階のレストランへ昇り、バルセロナの街のほかでは見られない絶景を堪能してみませんか。

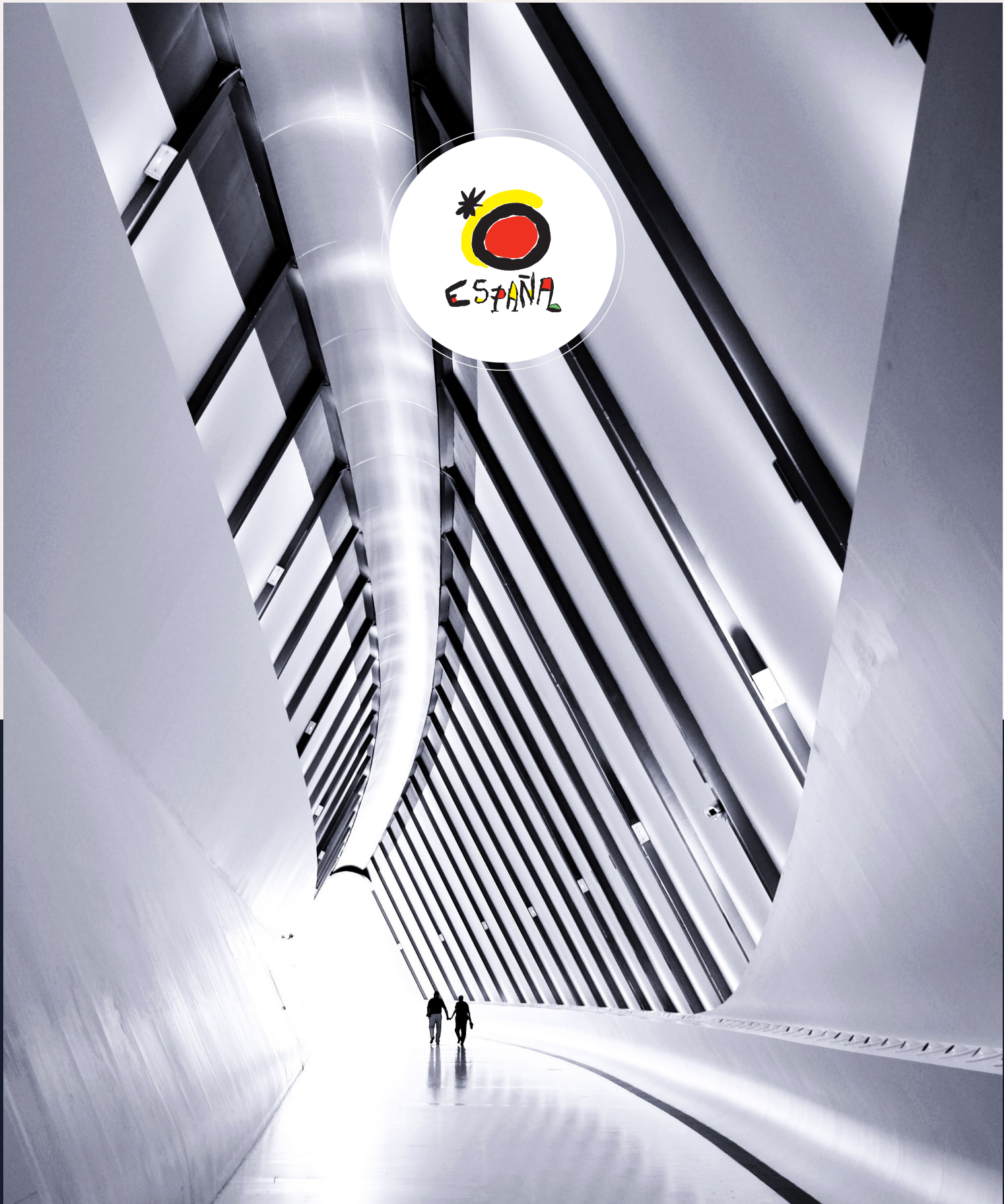


▲ Wホテル
バルセロナ

アイレ・デ・バルデナスホテル、トゥデラ

バルデナス・レアレス自然公園のすぐそばに、スペイン人建築家、モニカ・リベラとエミリアーノ・ロペスのデザインした非常に珍しいホテルがあります。施設全体が平屋で、大きな窓から眺望が開ける木造の立方体のような客室がずらりと並んでいます。


自然との融合を追求した構造のおかげで、各部屋からは日の出や月、そして砂漠のような景色を見られます。ほかに、フランス人のピエール・ステファン・デュマがデザインしたエアー・バブルと呼ばれる客室があり、風船のような部屋で星を見ながら眠りに就くこともできます。



 @spain

 @spain

 Spain.info

 /spain